

引きこもり・・・焦らず、あせらず



何でそうなるの？



先日、内閣府から「引きこもり状態」の人が全国で146万人（14歳～64歳）とする調査結果が発表されました。さらにこの数字には表れてこない引きこもりや引きこもりに近い人を入れれば、2倍3倍に増えるかもしれません。ライフサポートセンターでも今日まで、「家族から引きこもり相談を何件も受けてきました。今後ますます大きな問題となっていくことが想像できます。

概ね、最初の相談者は、母親からの相談が最も多く、原因も様々です。共通していることは「イジメ」で、中には発達障がいや疑われるケースもありました。その時は専門病院を紹介し、障がいが判明して自立支援に繋げることが出来ました。

遠距離や人と会うことが出来ないなどの理由のため、直接面談できない当事者とは、手紙や電話でのやりとりを続けます。自己肯定感の低い人が殆どなので、自信をつけるために来訪できる方にはライフサポートセンターのチラシ折りを手伝ってもらっています。

「引きこもり」を治す特效薬はありません。本人、家族は暗闇の中でどうしているのか悩み苦しんでいることと思います。手探りではありますが、とにかく焦らずに時間をかけて信頼関係を作り、次へ繋ぐことを心掛けています。

相談員 丸山 斉

まず相談、一人で悩まないで

新潟県ライフサポートセンター発足から1年8カ月が過ぎました。4人のスタッフで日々県内全域から相談を受けています。心の問題や労働問題、離婚・相続など多様な、幅広い相談があります。

相談員で女性は私一人ですが、中でも「引きこもり」の相談は、年代層も幅広く、背景も含めて奥が深い問題です。相談者の生活状況、居住地の問題などもあり、他機関（支援センター）との連携を密に、当スタッフも寄り添い出来る限りでの支援を目指している現状です。ひきこもりの取組が進んでいる地域から講師をお呼びして勉強会もしておりますが、8・0・50問題と連動し、今後ますます増えることが想定される厳しい課題であると思えます。

そして、最近増えてきていると感じるのは「相続問題」です。高齢の両親を残し、子供たちは全員出ていきます。実家に戻ることはないのに、相続放棄をしたいが、家や土地、ローンなどの負の遺産をどうすればいいのかわからないといった内容です。

「ここは、何でも相談です」。電話・来所面談（事前要予約）のいずれも対応しておりますので、一人で悩まずにどんな相談でも結構ですので話して頂ければ幸いです。守秘義務については徹底して守っておりますのでご安心してください。寄り添い相談のライフサポートセンターです。スタッフがいつでもお待ちしております。

相談員 佐々木 光子



「(株) ウェルビー」(新潟市)からの連携の申入れ



相談の相輪を拡げよう

4月下旬に、障がい者の就労問題を取り組んでいる「ウェルビー」という会社から、ライフサポートセンターに連携をお願いしたいという相談がありました。どのような組織なのかよく分からなかったのですが、障がい者の就労支援を行っている会社で、引きこもりでなかなか就職できないという方の支援も行っているとのことでした。

ライフサポートセンターへの相談で、引きこもりの相談が時々あるのですが、親がまだ働けるうちにはいいのですが、親が高齢化し、引きこもりの子供がこれから先やっていけるのかという心配だということでも相談に来られる方もいらっしゃいます。

この会社では、対象者の訓練期間は2年間を別途としているとのことです。ビジネスマナーやパソコン訓練、対人コミュニケーションの実践、就職に際して会社への同行や、就職後1年間のアフターフォローもあるとのこと。利用料金も前年度の所得に応じた金額であり、自己負担がゼロで通所している人が9割ということになります。

現在の所、新潟県には新潟市に2カ所あるということですが、「長岡市にも作って下さい」と要望させていただきました。燕市から新潟市に通っている方もおられるようで、燕市では交通費を全額負担してくれているそうです。市によって違うとのことになります。

ライフサポートセンターにも様々な相談来ており、どこに繋がっているのか悩むこともしばしばです。相談事業は連携できるところが増えれば、相談の幅も広がります。もっともっと相談のネットワークを拡大したいものです。

色々あるけど

まずは話を聞くことが大切

ライフサポートセンターは「何でも相談」の組織なので様々な相談が来ます。例えば、「自宅の薪ストーブの煙のこと」となりの方から苦情を言われました。煙突を工事するなどの安全対策をとったのですが、相手はなかなか納得してくれませんでした。どうしたらいいのか困っています」という相談であったり、また、「近所の家が古いので、鳥が巣を作って糞などで迷惑しています。市役所や町内会にも相談して対応してもらったのですが、なしのつぶてでどうにもなりません。何か他にいい方法はないでしょうか」といったことや、あるいは、「退職した父親が会い系サイトにお金を使っています。やめるように直接言うことができないので、ライフサポートセンターから言うてもらおうとはできないでしょうか」等々です。

とにかく様々な相談が来るのですが、紙面には書けないような「それ本当ですか?」と言いたくなるような相談もあります。疑問を持ちながら相談に答えるのですが、どうしたらいいのかと、半信半疑となりますが、相談者の話を信じての悩みながらの相談となります。

精神的に悩んでいる方で、1日に2回、3回とかけてくるような方もいます。一方的な話であったり、同じ話を何度も繰り返す方、話が長時間になる方もいますが、途中で話しを終わらせるために時間で切る時もあります。それでもまずは話を聞くことが大切だと対応しています。

